



1. 園の教育理念・保育計画について

幼児期は遊びを通して成長します。遊びながら健康で丈夫な体を作る、友だちと仲良くする、自然の不思議さを発見する、物の特性を知って制作活動をするなど楽しみながら育っていきます。しかし昨今帰宅後安心して外遊びができる環境が少なくなったこともあり、降園後に園庭開放して満足するまで遊べるようにしています。本園の教育理念は幼児が遊びを通して様々なことを経験し、自分で気づき考えられる子に育つ、すなわち主体的に学べる子を育てることを目指しています。それぞれの遊びや活動を通してどのような力を育てるかを、教員同士話し合っていく、深めていかななくてはなりません。園の教育理念に基づく保育実践の研究を更に深めていきます。

2. 保育について

同年齢は担任が相談して合同であったりクラスごとであったりしながら、同じ内容の保育をしています。教室活動は同年齢で、自由遊びの時間は異年齢の子どもたちで仲良く遊べるよう教員はかかわっています。自由遊びの時間は、年長児のすることをみて年少児も自分もやってみたくと挑戦します。心もとない動きの年少児には年長児が手助けしたりします。年長児が頑張る気持ちも育ちます。年長児の影響は大きいので、年長児らしく年下の子どもに思いやりを持って接したり、お手本となる行動がとれるよう促していくことが大切です。守るべき約束を受け入れる・仲良く遊ぶなどはじめのある行動がとれるよう、教員がかかわっていかななくてはなりません。集団の力で子ども同士が育つ場合や、個別に丁寧に指導する必要など場面に応じた指導を心がけています。行事や活動が多くあるので忙しいことが多々ありますが、子どもたちが一つ一つを楽しみながら取り組めるよう配慮しています。担任はクラスの子どもの活動に十分目配りし把握していますが、各児のエピソードの記録も大切にしています。

3. 研修

保育力の向上に教員研修は欠かせません。園外研修会に積極的に参加し研修に努めています。他園の研究保育発表に参加したり、また28年度は全日本私立幼稚園連合会四国地区教育研究大会の発表園になり、8月の発表に向け2年度にまたがり研究をしていきました。香川大学から指導助言の先生をお迎えし、研究テーマについて何度も園内で検討会を重ね、発表では予想外の参加者を得無事終わりました。回数を重ねた検討会で、教員同士の保育に対する考え方・保育方法についての話し合いが深まり発表園にあたったことがよい経験になりました。

4. 安全・衛生

建物・遊具の安全点検は学期毎に、点検シートをチェックし、必要な修理をしています。園舎については新耐震基準の建物です。衛生面については手洗い・うがいを習慣づける一方、保育室・トイレなどの清潔維持に務め伝染性疾患が広がらないよう注意をしています。衛生的な環境を保つことが重要ですが、一方どんな環境にも適応できるためには子ども自身の体が強健でなくてはならないといえます。食習慣と体力づくりを大切にしています。本年度は流行性の疾患が広がっておらずこのまま春が迎えられよう今後も努力していきます。砂場は降園後カバーをして汚染を防止し、安心して遊べるように配慮しています。火災・地震・不審者などの防災訓練を計画どおり実施しました。

5. 保護者への対応

保護者には必要に応じて、保育中の出来事を当日中に伝え、不安不信が生じないよう連絡を取っています。近年多様な要望をされることが増えました。園としては個別の配慮、時には全体としての配慮とその時どきに子どもたちにとって大切なことは何かと考え対応しています。学期毎に開くPTA役員会では、クラスの保護者の声も伝えていただきました。園としての考えを伝えるなどして理解を得るように努めています。伸び伸びと活動しおおらかな心を持つ子を育てる園の保育方針を十分理解していただき、協力していただけるよう今後も務めてまいります。

